

神楽名

みなみがわ

南川神楽

伝承地

南川地区

(梅の木・松原・佐礼・小払・中尾)

諸塚村大字家代

指定等

県指定無形民俗文化財

伝承団体

南川神楽保存会

代表 甲斐 良二



八幡様

◆ 神楽の概要・由来・その他

南川神楽は、諸塚村の東南部に位置する南川地区にて保存・継承されている。地区には梅の木・松原・佐礼・小払・中尾の5つの集落があり、持ち回りで毎年夜神楽が奉納される。かつては民家の軒先に接した屋外に「御高屋」を設けたが、現在は松原集落のみが個人の家を神楽宿として使用しており、その他の集落は集会所の敷地内に御高屋を建てて神楽を奉納している。

南川神楽のはじまりは諸説あるが、400年ほど前に小払集落にあった、東蔵寺の祖的和尚によって始められたと伝わっている。南川神楽は神仏混淆の神楽とも言われており、神の教えを神楽に、仏の教えを唱教に残したとされている。小払集落にある「東蔵寺跡」には、それを示すものとして、中世の様式を示す仏像や神像、遺構が現存している。

南川神楽の「舞入れ」では、御高屋近くにある鎮守の森から行列が出発し、地区に伝わる20を超える神面を着けた神々が、優雅に舞いながら神楽宿に向かう様子は荘厳である。地形的に隣接する戸下神楽とは交流があり、神楽が奉納される日程が重ならないように取り決められている。

◆ 芸能の機会・場所

- 南川神楽…2月第1土・日曜日
 - 坐頭神祭…3月28日、吉野宮神社大祭
 - 秋例祭…10月24日に近い土曜日、南川神社
- その他、集落の祭りにおいて神楽が奉納される

◆ 演目一覧

かどい 門入れ	まいい 舞入れ	かみむか 神迎え	1 番：おが 拝み	2 番：みこうや 御高屋ほめ	3 番：じわり 地割(上)
4 番：地割(下)	5 番：もり 森 ※1	6 番：あたご 愛宕 ※1	7 番：きじん 鬼神	8 番：おだいじん 御大神(上)	
9 番：御大神(中)	10 番：御大神(下)	11 番：てんじん 天神	12 番：むらかた 村方	13 番：はちまんおおかみ 八幡大神	
14 番：ゆみ しょうご 弓の正護(上)	15 番：弓の正護(中)	16 番：弓の正護(下)	17 番：すみよし 住吉	18 番：こうじん 荒神	
19 番：いなり 稲荷	20 番：しんじわり 新地割(上)	21 番：新地割(下)	22 番：おきえ 沖江(上)	23 番：沖江(下)	
24 番：かんずい 神随(上)	25 番：神随(下)	26 番：ごずてん 午頭天(上)	27 番：午頭天(下)	28 番：い せ 伊勢(上)	
29 番：伊勢(下)	30 番：いわと 岩戸(上)	31 番：しばとり 柴取	32 番：とり 戸取	33 番：岩戸(下)	
34 番：うきわとり 浮輪取	35 番：ひ かみ 火の神	36 番：しめぐち メロ	37 番：いなり 稲荷	かみおく 神送り	

※1 森・愛宕の二番を「とうせい(東西)神楽」と呼ぶ

※令和6年(2024)2月に奉納された演目に基づく

◆ 演目の特徴

南川神楽において欠かせない演目は、「地割」「森・愛宕(とうせい)」「鬼神」であり、なかでも「地割」は全ての舞の基本となる。また、「森・愛宕(とうせい)」「住吉」「稲荷」の三番は小神楽こかぐらと言われ、他の舞と違う点がみられる。「稲荷」は夜を徹して舞うことから「夜中の稲荷」とも呼ばれ、調子がよく、テンポが速いという特徴がある。

南川地区では「七荒神、八稲荷」と言い、各集落で七つの荒神と八つの稲荷が祀られていたと伝わっている。「荒神」の演目では「三宝荒神さんぼうこうじん」と呼ばれる三荒神が神主と問答しながら、神楽の由縁や起源を語る内容となっている。また、三荒神が登場する前後に「舞荒神まいこうじん」が登場する。通常は一番だけであるが、特別な場合には二番舞われる。

天岩戸にお隠れになった天照大神を再びこの世に導き出す「岩戸」の演目では、南川の神々の代表である春日大神かすがのおおかみが岩戸を開く役割をつとめる。「岩戸(上)」は岩戸を探る様子を、「岩戸(下)」では岩戸に見立てた屏風を開き、天照大神の手を取って引き出す演目となっている。

◆ その他の特徴

- 面 … 鬼神、天神、八幡、春日、荒神、柴取、戸取、天照大神、浮輪取、獅子頭 等
- 楽 … 鼓、笛、鉦かね（手拍子てびょうし、またはチャンカラ・ジャンカラとも呼ぶ）
- 装束 … 白衣、白袴、舞衣まいぎぬ、和服、千早ちはや、更紗さらさの舞衣、陣羽織じんばおり、烏帽子えぼし、襷たすき、毛笠けがさ、鉢巻はちまき、宝冠ほうかん 等
- 採物 … 鈴、扇さき、櫛くし、刀かた、御幣ごへい、面棒めんぼう、弓・矢 等
- 文書 … 「御神楽杖日書」、「御神楽ねぎ正行帳」、「御神楽舞い方全集」、「南川神楽ぜき唄集」（南川神楽保存会） 等

◆ 伝承の現状・課題

南川神楽は、戦後しばらくは実施を見送ったことがあったが、昭和25年に神楽愛好会が結成され、南川地区全域を範囲として神楽が奉納されるようになった。その後、昭和56年に南川神楽保存会となり、令和7年(2025)3月現在、保存会には43名が在籍している。

少子高齢化の影響で舞い手が減少することを危惧している。また、神楽を支える女性部(婦人会)の高齢化に伴い、5つの集落での持ち回りによる奉納が難しくなりつつある。地区外の人でも興味があればともに継承してもらいたいという思いで積極的に保存継承活動を行っている。



村方



八幡大神



岩戸(下)